

注目の新設校インタビュー

お話 西武台新座中学校(認可申請中)

西武台高等学校 校長 深澤 一博 先生



編集部 よろしくお願ひいたします。西武台高校が今回、中学校を開校しようとお考えになったきっかけは何でしょうか。

深澤 これからの時代を考えると、これまでの考え方ややり方がますます通用しなくなるようなグローバル社会が到来すると考えています。このような社会で活躍するには、高校までにもっとしっかりした「学び」を身につけなければなりません。高校3年間では不十分で、中高6年間をかけて、しっかりとした知識の積み上げを図ることが大切です。

編集部 時代に対応する人材の育成ですね。

深澤 はい。そしてその時代は私たちの想像をはるかに超える、厳しい時代になるのではないのでしょうか。まったく新たなコンセプトをもった中高6年間の学びの場が必要であると考え、来春の開校に向けて準備を進めています。

編集部 6年間の流れをご説明ください。

深澤 中1・中2の2年間を基礎期、中3・高1を発展期、高2・高3を飛躍期という3つのステージに分けて、学習や生活のリズムを作りながら、最終的に難関大学を突破できる高い学力を身につけていきます。

編集部 授業時間数はいかがですか。

深澤 50分授業週6日制で、土曜日は4時間ですが、平日は週2日が7時間、週3日は6時間です。5教科の授業時間数を学習指導要領の標準より大幅に増やしていて、国語は週あたり4時間、数学は7時間、英語は10時間、社会は2時間、理科は1時間の増加です。特に中1英語と中2数学は標準の2倍となります。

編集部 時間数をたっぷりって先取りするわけですね。

深澤 はい。教科によって異なりますが、中3段階で高校内容に次々に入っていく予定です。時間数が多いからと言って、1回の授業の進み方が極端に早いわけではありません。しっかり理解し、身につけることに重点を置きます。高2までで高校内容を一通り終了し、高3は受験対策が中心になります。

編集部 時間数が多くても、なかなか理解が難しい単元もあると思いますが。

深澤 とにかく「わかる授業」を徹底します。生徒たちの今の学習状況や理解度に立脚した授業展開です。理解度が高まることが大切です。理解度が高まれば未修得の積み残しは無くなっていきます。分かるということは、結果的に自分が変わるということなのです。この自己変革をしっかりとバックアップしてまいります。

編集部 どのようなバックアップでしょうか。

深澤 学習計画、単元の学習、確認のテスト、復習の「PSCR」のサイクルを、毎回の授業、学習単元、学期単位で実施していきます。また、1年次では2人担任制で学習状況を細かくチェック、放課後学習や指名補習も行います。さらに前後期の夏期講習や3泊4日の夏季学習合宿だけでなく、春季・冬季にも2泊3日の学習合宿を実施することで内容の定着と同時に先取りも目指します。

編集部 中学校のクラス設定はどのようになっていますか。

深澤 特進選抜クラス30名、特進クラス50名の募集の予定で埼玉県に申請をしております。

編集部 特進選抜クラスと特進クラスの違いは何でしょうか。

深澤 目標大学の違いです。特進選抜クラスは最難関国公立大、最難関私立大、医歯薬系学部の現

役合格が目標、特進クラスは難関国公立大や難関私立大の現役合格が目標です。

編集部 入学時点から分かれるのですね。

深澤 はい。入試で特進選抜合格と特進合格を出す予定です。ただ、固定的に考えているわけではありません。生徒本人の希望が変わることもあるでしょう。学年が変わるときに本人の希望と学習到達度を踏まえて入れ替えも行います。両クラスで中学段階ではあまり大きな学習進度違いは出ないと思いますが、高校段階になると少し違いが出るでしょう。

編集部 特進クラスは高校入学の生徒と一緒に、といったことはあるのでしょうか。

深澤 それはありません。授業進度も違いますので、特進選抜クラスも特進クラスも高校入学生とは別に授業を進めていきます。

編集部 大学合格目標はいかがでしょう。

深澤 中高一貫1期生については、卒業生80名で国公立10名、早慶上理10名、GMARCH20名、医歯薬系5名の現役合格を目標としています。グローバル社会で活躍できる力を身につけていけば、十分実現可能な目標です。

編集部 グローバル社会と言えば、英語にはかなり力を入れるようですね。

深澤 中学校教育では初の「THE JINGLES」を基礎期で導入します。これはネイティブの発音に科学的にアプローチする英語発音プログラムで、プロの翻訳者や国際社会のビジネスパーソンなどから高い支持を得ているものです。まず基礎期に徹底的な発音訓練と発音に必要な筋力強化訓練を行います。子音や息音をベースとする音作りです。英語を聞き流すだけという受動的な口まねでなく、自分で英語の音作りをするお手伝いをします。人間は自分が出した音しか認識できないものです。リスニングが苦手という方は、実は「音出し」ができないのです。大学入試のリスニング試験では、英語が聞けないというよりは、むしろ英文が読めないということを強く実感している諸君が多いと思います。音が出せない人は聞き取れない。聞き取れない人には読解力も伴わないという関連性があるのです。基礎期では発音を重視します。

編集部 通常のネイティブの先生の英会話とはどこが違うのですか。

深澤 ネイティブの発音を真似しましょう、というものではありません。ネイティブは英語を発音するための様々な筋肉の使い方を幼い頃から身につけています。日本人が鍛えていない「英語を発音するための筋肉」をトレーニングで鍛えよう、というもので、絶対に譲れない英語音作りの筋力トレーニングから行います。説明会での実演も考えていますので、是非参加してください。

編集部 トレーニングで身についた力はどのように発揮されるのでしょうか。

深澤 「THE JINGLES」の検定試験(JTEP)、日本語がほとんどわからない留学生との交流、中3でのオーストラリア短期留学などの場で発揮されます。なお、留学生との交流やホームステイでは、正しい発音で英語が話せるだけでなく、その内容が大切です。母語である日本語力の向上の指導も同時進行で行います。特に、しっかり手を使って書くこと、文字化することは大切です。



[中学生用の新校舎]

編集部 ICT教育についてはいかがでしょう。

深澤 中学校では日本初となる、ICT教育専用教室を設置します。東大の重田先生の監修のもと、SACLA(西武台アクティブラーニングラボ)を運用します。生徒に1人1台ずつのタブレットPCを設置し、調べるだけという受け身型学習ではなく、ディスカッションやグループワークといった主体的、能動的(active=アクティブ)な学習を行っています。

編集部 課題解決型の学習ですね。

深澤 はい。現在、大学で行われているプロジェクト・ベースト・ラーニングを導入しての課題解決学習の場とします。また、ホームルーム教室も含め、全階に無線LANを設備しますので、通常の

クラスの授業でも映像教材などを積極的に活用していきます。

編集部 今度は生活面についてうかがいます。校舎は高校生と一緒にですか。

深澤 今春完成した新校舎が中学生用になります。現在高校生が一部の教室を使用していますが、順次中学生だけになっていく予定です。1階で高校生の校舎と接続しています。グラウンドや体育館等の施設や特別教室などは高校生と共用します。

編集部 クラブ活動はどのような予定ですか。

深澤 現在、高校には体育系22、同好会を含む文化系11のクラブがあります。基本的には高校生のクラブと一緒に入るよう考えています。

編集部 運動部ではコートなどの規格や、中高生の体力差など、難しい面があるようですが。

深澤 その通りです。しかし、学年の異なる生徒がともに活動することは、人間形成の面からも大切だと思っています。学年に応じた練習メニューを用意するなど柔軟に対応して、なるべく一緒に活動ができるよう心がけていきます。ただ、下校時間の問題もあるため、7時間授業の日はクラブ活動を行わない予定です。

編集部 昼食はお弁当ですか。

深澤 食堂で昼食をとってもらおうと思います。高校生とは昼休みの時間帯が異なりますので、中学生だけでゆっくり食事がとれます。

編集部 入試についてはどのように検討されていますか。

深澤 現在のところ、特進クラス入試を1月11日午前と12日の午前に、特進選抜クラス入試を1月11日午後、12日午後と25日の午後に行う方向で検討しています。全回2科4科選択、国・算は各50分100点、理・社は計50分計100点、特進選抜クラス入試では特進クラススライド合格も出す、といった案が有力です。また、1月12日には本校だけでなく、浦和にも会場を設けます。現在、許可申請中ですが、今後はHPで正式な日程

や場所の詳細を発表します。

編集部 千葉県野田市に兄弟校として開校した「西武台中学校」がありますが、同校のような入試問題になるのでしょうか。

深澤 地域事情も違うこともあり、同校とは教育内容や教員も埼玉県とは異なります。入試問題はあくまで西武台新座中学のオリジナルです。

編集部 出題方針をお聞かせください。

深澤 基本を押さえた問題はもちろんですが、「西武台新座中学校」に入学してほしい生徒像をイメージした問題を作成中です。現在、各教科の教員が検討しています。夏休み明けまでには模擬問題を公表したいと思っています。

編集部 ところで3月11日の地震の時はどのような対応でしたか。

深澤 震災の日には、部活動を行っていた生徒を合わせ約300名が校内におりました。大きな揺れでしたが幸い生徒にケガはなく、校舎も大丈夫でした。電車利用の生徒たちは、東は吉川、西は所沢、南は成増、北は小川町の4方面にスクールバスを配車して、自宅に最も近い駅で降ろしました。無事に全員帰宅させたと報告が入ったのは、翌12日の午前1時を回っていたと記憶しています。中学生にもこのような対応をとることになるでしょう。保護者向けの緊急配信システムも導入し、連絡のスピードアップを図ります。

編集部 では最後に、受験生・保護者の皆さんにメッセージをお願いします。

深澤 西武台高校で定評になっている、先生と生徒の深い絆を、西武台新座中学でも継承したいと考えます。学ぶことは楽しいという前向きで積極的な姿勢をもった生徒を育てます。不確実、不確定性の高いこれからの社会で、何が起こってもめげることなく耐え抜ける強い精神力を養い、新しい価値を創造できる能力を育む「人作り」に邁進してまいります。

編集部 ありがとうございました。

西武台新座中学校(認可申請中)

交通案内 東上線柳瀬川駅、武蔵野線新座駅から各スクールバス約15分、西武線所沢駅よりスクールバス約25分 ○説明会 6/18(土)、7/8(金)、7/30(土)、10/4(火)、10/22(土)、11/2(水)、12/8(木) 各10時～、なお10/4は所沢くすのきホール、11/2は浦和ロイヤルパインズホテル、他は本校で実施